

第4章 地域での市民・事業者の取り組み

1. 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが重要となります。

環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取り組みを報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。

市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取り組みは、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議となります。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

この「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するため、その地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

一年を通した浅川巡回パトロールや浅川ふしぎ探検などからは、ギバチ・ヨシノボリ・カマツカ等が数多く見られる事がわかります。同時に、水位の低下も季節を問わず報告されています。「まちなかウォッチング」では、中央地区にある自然環境・歴史などを市民の方々と共に、水量の豊富な湧水2ヶ所・自然が多い公園や広々とした緑地保全地域を見て回る事ができました。これらの情報は、数多く参加しているイベントにて環境コーナーを開き、「グリーンマップ」として、また浅川の魚・花をパネル・下敷にして市民の方々に発信しています。環境クイズでは、八王子のごみ分別ルールの再確認に良いと少しずつですが、リピータの方も増えています。

身近な省エネの情報を話す中で、市民の方々の温暖化防止に対する関心は高く、個人としての行動をなさっているのを感じます。ただ未だ、大きな行動には至っていません。

■ 河川環境

浅川巡回パトロールを実施し、会員に内容を報告すると共に、必要により関係行政へ報告と要請を行いました。低水護岸斜面にハリエンジュの繁茂が懸念され、申し入れと現地立会確認を行い、河川敷の樹木が大規模伐採されました。

重点課題である浅川の清掃活動は、河川敷の水辺を重点に2回／年実施し、その他河川でのイベントなどの際に堤防や橋の下などを中心に清掃を行いました。

河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、より良い水辺環境を確保し、誰もが親しめる浅川であるようこれからも地道に努力していきます。

6月2日に全国一斉水質調査に参加し、浅川大橋と鶴巻橋真下の地点で水質調査を行いました。水質は近年きれいな水のレベルで安定しています。



低水護岸斜面のハリエンジュ



浅川ふしぎ探検

9月14日に第9回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」を企画し、親子あわせて50名の参加がありました。当日は曇天でしたが、水温は高く、川遊びにはよいコンディションで、ライフジャケットを着用し、魚獲りやボート遊びなど親子で楽しいひとときを過ごしました。参加者からは、色々な魚が捕えられるほど地域の川がきれいになったなどの感想が寄せられました。イベントは好評でしたが、水量が少なく川底に土砂の堆積が多かったことが気掛かりで、次年度に期待したいと思います。八王子浅川子どもの水辺協議会の「ウグイの放流イベント」(第1回

5月15日、第2回6月12日、第3回7月11日)では、スタッフとして延べ8名が参加協力し、7月20日の「2013ガサガサ探検隊」では、スタッフとして9名が参加協力しました。

中央地区における小学校環境教育(4校)の支援活動では延46名がスタッフとして参加しました。

■ ごみの減量・資源循環

4月のみずき通りフェスティバル、7月の中野市民センター七夕まつり、10月の子安・台町・大和田市民センターまつり、11月のいちょうまつり、1月の西八ハイツ新春餅つき会では、「環境コーナー」を設け、クイズをとおして正しいごみの分別を理解していただくと共に、クイズ参加の景品として生ごみから作った堆肥を配布して、ごみの減量化の具体的な方法を紹介しました。

エコひろばでは、みんな集まれ委員会やもったいない委員会に参画し、こども環境まつりやあったかホールまつり等のイベントを支援しました。



いちょう祭り（11月）

■ 地球温暖化防止



家庭の省エネ講座 明神町町会

市民の方々に省エネの具体的な方法や温暖化の問題を伝える人材を育成する為、各地区環境市民会議から、スタッフを募集し、勉強会を実施。省エネルギーセンター主催の「家庭の省エネアドバイザー検定」試験では、4名の方が合格しました。

温暖化防止センターでの「家庭部会」・「運営委員会」に参画し、昨年に引き続き「再生可能エネルギー導入検討会」に参画し、この会議を元に9月に「八王子市再生可能エネルギー導入検討報告書」がまとまりました。10月は、環境学習リーダー養成講座の一つとして、11月には、明神町の町会向けとして、また、3月には法人会の講座として「省エネルギー講座」を実施しました。

■ 大気汚染測定

大気汚染の測定を10ヶ所で、6月と12月に行いました。6月の測定では、環境基準の値を超える結果はありませんでしたが、12月の測定では、国道16号バイパスで2ヶ所、国道20号で2ヶ所の合計4ヶ所で環境基準の値を超える結果となりました。

■ みどりを増やす

環境フェスティバルや市民センターまつりにおいて、1,200枚程度のグリーンマップを配布し、まちのみどりの現状について市民に周知しました。市役所前通りのアドプトにおいては、毎回、会員が参加し、街路樹の保全や歩道の清掃活動を行いました。3月には、27名の市民の参加で、京王八王子駅前の船森公園から、小宮公園、暁町緑地、中野山王の子安神社を経て中田遺跡公園まで、自然体験講座としてまちなかウォッチングを行いました。



暁町緑地（まちなかウォッチング）

■ イベントへの参加

6月1日八王子環境フェスティバルに出展し中央地区環境市民会議の取組について発信しました。

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区にはみどりの豊かな加住北、南丘陵があり、この間を縫うように谷地川が流れています。谷地川は流域の下水道整備に伴い、汚濁物質の流入が減少し、上流部のきれいな水に棲むカジカやシマドジョウ、水辺に棲むカワセミなどが中・下流域でも見られるようになりました。また、みどりの拠点である滝山城跡および大谷、中野山王など都と市の7ヶ所の緑地において、地区を越えて関係諸団体と協力して整備・保全を行っています。特に滝山城跡においては、城郭の歴史を探り、往時の姿がうかがえるように配慮しつつ、環境保全活動を行っています。さらに年間2回春と秋の自然体験講座を継続して行うことで、多くの市民の方に身近な自然環境を体験してもらえるよう活動を続けています。

■ 谷地川の水質調査

八王子の最も北側を流れる谷地川は、加住、石川地区の中央を横断する全長12.9kmの川で、日野市で多摩川に合流します。谷地川7地点の水質（COD値、pH、電気伝導度）と水温、水生生物の調査を2ヶ月に1回行い、これまでの調査結果と比較し、水質の改善度合いや水生生物の変化を確認しています。

河川を目視で観察すると、上流域での水量が減少していると思われます。これは開発による緑地や土壌の改変で浸透面が減少し、雨水の涵養機能が低下していることが一因と思われます。河川環境を維持するためにもみどりの保全の必要性を改めて感じました。

■ みどりの保全活動

滝山城跡をはじめ大谷、暁町、戸吹北という都の緑地保全地域と栗の須、大和田、大谷、中野山王の市の斜面緑地保全区域の整備を関係団体と協働して継続しています。

■ 滝山城跡の保全活動

滝山城跡は八王子のルーツであるという位置付けで、「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協働し、滝山城址の自然と歴史を守る観点から景観を保護・維持するための活動を行っています。史跡ということを念頭に置いて、下草刈りや歩道の整備などを精力的に続けています。

■ 自然体験講座の実施

滝山城跡の歴史的価値およびその地域の自然、みどり、生物多様性を知ってもらうために自然体験講座、散策ツアーを毎年秋に開催してきました。

さらに、今年度から、春の自然体験講座として「春の滝山自然公園とかたらいの道散策ーカタクリと圓通寺のしだれ桜ー」を計画し、実施しました。参加された方々からは「八王子市内にもかかわらず、近くに田園風景があるこ



カタクリのつぼみ



田園の中での散策

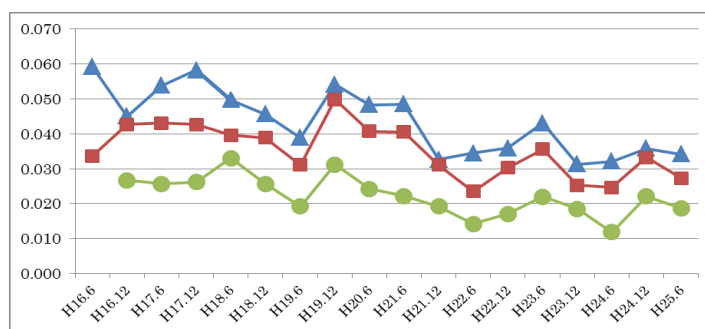
とに驚いた。何十年振りかで畦道を歩き、田園の空気を満喫できた。八王子在住でも知らない発見があり楽しかった。」などといった高い評価をいただきました。より多くの市民の方々が、北部地区の自然の素晴らしさを体験し、私たちの活動への理解を深めていただく場と位置付け、今後も充実させて継続していく予定です。

■ 大気測定

カプセルによる二酸化窒素（ NO_2 ）の簡易測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に30地点以上で、夏・冬2回実施しました。

交通量の多い幹線道路では、環境基準を上回っているところも見られるなどまだまだ改善の必要性があると思われます。約10年間、定点観測を続けた結果、幹線道路沿い、その他の道路、道路に面さない場所で、どれも減少傾向にあることを確認しました。

(ppm) 北部地区の二酸化窒素濃度の経緯



▲：幹線道路沿い ■：その他の道路 ●：道路に面さない場所

■ 環境教育

毎年秋期に小宮小学校の4年生を対象に、多摩川の水質や魚、水生生物、植物や石、鳥など多岐にわたり川の様子を調べる「多摩川自然体験学習」を支援しました。生徒は、1回目は総合基礎、2回目は部門別調査、3回目は教室での調べ学習、4回目は全体発表会を実施し、総合的に多摩川的环境を知ることができました。

また大谷緑地保全地域における近隣小学校の自然体験教室、企業による緑地保全活動(東京グリーンシップアクション)や暁町緑地での首都大学東京の緑地保全実習(グリーンキャンパスプログラム)なども実施しました。

■ 環境フェスティバル参加

6月、八王子環境フェスティバルに参加し、メンバーが作成した環境パネルを展示しました。八王子駅から至近の大谷緑地保全地域の豊富な自然についての写真展示や、谷地川で採集した魚・水生生物の元気な姿を水槽で紹介しました。

■ 広報活動

北部地区の環境を知ってもらうため、鳥・植物の写真をしおりとして約30種作成し、各種活動時に配布しました。

■ 第2次八王子市環境基本計画策定への参画

同計画に掲載される「地域の行動」を策定するため、現状を調査・整理しました。



川を調べる



魚・水生生物の採取



手作りしおり

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、みどり豊かな自然に恵まれて多様な生態系が形成されています。

このような環境の中で地域を流れ、浅川の源流として位置付けられています案内川、醍醐川、小津川、山入川、川口川、城山川、大沢川は近年保水力浸透性が低下したためか、河川に水量の減少や瀬切れが目立つようになり、景観に大きな変化が見られます。

市街地の側道や河川ではごみ類のポイ捨てが多々見られます。撲滅に向け地域一丸となって地道な活動を続けていますが、更なる協働が必要となっています。

地域では大きな幹線道路の交差もありますので、陣馬街道・高尾街道の各交差点や生活地域の大気汚染測定も13ヶ所に増やし測定を続けております。

この度、川町の都有地約27haに東京都と企業との協働による「自然環境保全・環境体験学習事業」が開始される計画があります。

この地域は長年放置され、雑木雑草の荒地でしたが、この様に次世代に向け整備活用されることは、周辺の住民とりわけ児童・生徒には大変よい影響を与えることと期待します。

■ 小学校への環境学習支援活動

近隣の小学校では、総合学習の時間を使って地域の「川しらべ」学習を採り入れています。

城山小学校をはじめ、貳分方小学校、陶鎔小学校、川口小学校、上壺分方小学校（プールの水生物調査）からの要請に応じて会員が丁寧に対応しており、先生や児童から喜ばれています。

しかし、大沢川、川口川は、最近水量の減少があり瀬切れがあちこちで見られ、渇水期には満足な川調べができない状況です。



上壺分方小学校のプール調べ



貳分方小学校の川調べ



川口小学校の川調べ

■ 湧水と川の水質調査活動

20年度から「身近な水環境の全国一斉調査」に加わり大沢川・城山川・城の越川の源流から合流点までの9ヶ所の水質調査を行い、主催団体・東京都・市に報告をしています。

合わせて災害時にも役立つ地域の「湧水水質調査」も行い町会にもそのデータを提供しています。



城山川での水質調査

■ 大沢川・城山川・城の越川のクリーン活動と外来植物駆除活動

大沢川・城山川・城の越川は流域の人口の多い市街地を流れています。近年下水道の普及とともに水質の向上は格段に図られましたが、ごみの流入はまだまだ問題です。漂着沈殿ごみの回収を年5～6回実施していますが、毎回ボランティア袋15～20袋の実績は誇れるものではありません。

また新たに、河川内およびその側道、周辺公園で外来植物が目立ちはじめ、在来植物を枯らしたり、絶滅に追い込んだりするため対策が必要になってきています。植物研究者の方に講師をお願いし、その知識を得ることと、一昨年から一定地域で集中刈込を行うなど「特定外来植物」の駆除を手掛けています。



城山川クリーン活動



城山川側道の外来植物刈込み

■ 自然体験講座の開催

西部地区は市内でも歴史の古い地域でもあり、史跡も多数残っています。この歴史的資源を使い市民の方々にこの故郷を理解して頂く“歴史探訪シリーズ・元八王子の歴史を訪ねる”をテーマに自然体験講座を実施しています。今年は第2弾「若葉の元八湧水をめぐる」を実施し、市役所から泉町湧水群～旧陣馬街道～式分方町 日枝神社までを歩き、参加者35名とスタッフ・関係者50名の列となりましたが歴史をひも説きながら新緑をハイクするのも楽しいものでした。



自然体験講座

■ 大気汚染（NOx）調査活動

「身近な空気の汚れを調べ、環境とまちづくりを考えよう」を合言葉に、毎年6月と12月に大気汚染測定（二酸化窒素）を実施しているが、この運動も都の呼びかけから73回を迎えました。

当地区も交通量の増加、新規住宅団地の開設もあり、順次測定個所を増やし、現在は13ヶ所のデータをとって蓄積しています。近年の汚染の一因に生活型公害（生活者自身が原因になる）があると言われていますが、幸いに当地区の住宅専用地域は緑地も多く、まだ空気もよく快適な環境を保っています。しかし車が集中する国道・都道の幹線道路の交差点は、環境基準値を超えている箇所もあり難点です。生活者などが利用している一般車（排気ガス）は町会などと改善策を考えて行きたいと思っています。

■ 環境施設見学会・交流会参加

環境市民会議として、その排出物の処理および他の団体の保全活動の事例などを見学・研究するために都や市の処理施設を積極的に訪ね視察しています。ごみ処理では北野・戸吹清掃工場、二ツ塚処分場、プラスチック資源化センター、水処理では八王子水再生センターなどを見学し、担当の方からの処理方法について伺ってきました。また東京都主催の公園・河川のボランティア交流会にも参加し、専門講習を受講するほか、他の活動団体との交流を行い、事例について情報の交換をしています。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、最近、高尾山の入山者が大幅に増え、圏央道高尾山ＩＣの開通に伴い中央道と圏央道の連結などにより、首都圏の交通の要衝となって周辺の環境への影響が懸念され、騒音や大気汚染、あるいは動植物などの自然環境を見守っていく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考える『エコミュージアム構想』に基づく「地域の宝の掘り起こし」や里山保全活動では池の沢館町緑地をベースにした蛍観察会など各種体験講座の開催、地域の小学校を対象に環境教育支援に取り組んでいます。

また、旧高尾自然科学博物館跡地の高尾の里拠点施設は「TAKAO 599 MUSEUM」の名称を得て建設も始まり、博物館機能を重視した運営について市と調整を行っています。

地域の啓発活動では、市民センターまつりでの展示やいちょう祭りでのごみ分別指導、マイバッグの店頭啓発、河川の清掃活動などに力をいれて取り組んでいます。

■ 高尾山の保全

高尾山自然調査で指標樹木の樹勢を観察・記録し年ごとの変化を監視しています。6号路から1号路、蛇滝口の指標樹木22本を6月に、1号路から4号路、蛇滝口の指標樹木15本を翌3月に年2回の調査をし、過去8年間の記録を整理し比較検討を行いました。同時に高尾山「環境パトロール」を追加し今後も継続します。小仏城山周辺の環境調査を3回行いました。高尾山の入山者、人工物の急増により、景観や自然に与える影響について環境フェスティバル、地区市民センター祭りで啓発し環境保護を訴えました。

■ 地域の宝起こし

地域の宝を掘り起こしのコースを設定し、自然体験講座を開催しました（10月）。一般市民17名、会員14名が参加し小仏から駒木野までの自然・歴史、文化遺産を観察しました。

会員で何度も下見し、調査したコース案内図や地域の宝の写真、説明文を当日資料として参加者に配布し好評を得ました。



自然体験講座（小仏川沿い）

■ エコミュージアムマップ

高尾編、市街編の改訂版1,000部を印刷し、地域の宝の再認識資料として市民に配布しました。

■ 高尾の里拠点施設

27年度に開設予定の「TAKAO 599 MUSEUM」に関して「高尾の自然科学博物館を考える会」と合同で「要望書にまとめ」7月に提出、その前後2回、市と協議しました。

■ 里山保全

「池の沢に蛍を増やす会」と協働で6月、8月、9月に一般市民、企業の従業員・家族と蛍観察会、夏休み子供自然



夏休みの子供自然体験講座



企業の里山体験講座（館町緑地）

体験講座、里山保全の体験講座を行い、延べ会員61名、一般267名が参加しました。7月には新たに東浅川原宿町会主催の子供自然体験講座を、陵南公園で支援し地域との交流を図り、また、小仏川沿いの散策ガイドマップの作成、駒木野の野草の保護は継続して取り組み、関連する里山の調査は地域別に会員が分担し行っています。26年3月に一般市民と野鳥観察会を池の沢にて開催しました。

■ 大気汚染測定

今年度の6月と12月のNO₂の測定値を比較した結果、高尾街道・入口と櫛田・東京高専前交叉点は12月の値が上昇し、北野街道・館事務所前の測定値は0.034から0.016PPmと低下しています。この原因は定かではありませんが、過去にも0.019PPmの低い値が何箇所か記録されており、一方、あまり変動のない安定している箇所もあります。過去の測定データは平成19年(0.034PPm)から現在(0.028PPm)に至る7年間の推移は低下傾向にあります。

要因として、測定地周辺の交通量(車台数)は増加傾向にありますが、車の車種については普通車が減少し、排気ガス量の少ない環境対応車や軽自動車が増加傾向にあることが考えられます。

■ 流域の水質調査

地区内各河川の過去10年間のCOD値の推移を検討した結果、ほとんどの採水地点において、COD値は低下傾向にあり、現在は2mg/L以下のため、今年度からは6月の全国一斉の調査の年1回の測定としました。測定結果は、上流端めじろ台東は比較的高いCOD3mg/Lとなり、他の採水地点では全て2mg/L以下でした。25年度の傾向は水(雨)量が少なかったことでした。

■ 河川の清掃・河川の健やか調査

新たに西南部地区エリア内の「河川の清掃・河川の健やか調査活動」を企画し、5月に参加者11名で湯殿川(和合橋～田中橋間0.7Km)の兩岸の通路、川底まで入念にごみを拾い、自転車などの粗大ごみや空き缶やビニール袋など45Lの袋に18袋もあり、分別後、市の協力で収集処理してもらいました。また「河川の健やかさ調査」は境橋の上流・下流を全員で調査し、結果はレーダーチャートに集計し、健やかさ評価では川の様子、護岸工事、子供の遊び場など比較的低い項目が4項目ありました。



身近な河川(湯殿川)の清掃活動

■ ごみの減量・資源化

ごみの減量の知識・情報の啓発として、地区市民センター祭りや環境フェスティバルでパネルの展示をし、現場のごみの分別による減量・資源化の指導は、地域の町会の祭りで実践しました。また、可燃ごみとなる落ち葉を老人会や近隣住民と共に清掃・収集し糠を混ぜ腐葉土にし、「ごみの減量と資源の自然循環モデル」の実践ノウハウの構築ができ、終了しました。

市の「マイバック店頭啓発活動」は駅前のスーパー3店舗に4回(延べ31名)参加協力しました。

当会主管の「いちよう祭りの環境委員会」で、祭りで出た「ごみと資源の分別」は来場市民にも定着し、今後もこの大きな啓発活動の定着・維持を拡大した新管理体制の構築に取り組んでいきます。

日常生活の中での食材を無駄なく使う「エコレシピ」の実習や水処理施設の見学会も楽しく参加し、不法投棄の監視活動では、池の沢頂上付近など限られた観測地点で不定期に監視しています。

■ 環境教育支援

教育支援7年目を迎え、支援校は15校の内地区内4校に対して、支援者11名(年間延べ94名)が支援活動を行いました。年度まとめの発表会(校内外)にも参加・協力しました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に！」

東南部のみどりは、周辺域での小規模開発によりみどりが減少している一方で、手入れの行き届かない放置された里山も見受けられます。

河川の状況は、山田川下中田橋下流域と浅川の中央線上流を除いて、COD値はほぼ1～3を示しています。

年2回駅周辺のごみの内訳ごとに量を数えることにより、きれいさの評価を行っています。たばこの吸い殻はポイ捨てが見られるものの、街全体としては年々非常にきれいになっています。

大気汚染の状況は東京都一斉NO₂測定に2回参加し、継続して測定していますが、16号バイパスでは数値の悪い場所が多く今後とも注目していく必要があります。

地域とのつながりを大切にしながらこれからも街の美化、河川の美化に努めていきたいと思ひます。

啓発活動

年間をととして協働で行った活動をパネル化し、市民センターまつりやエコひろば等で展示し、啓発しています。

環境保全活動 東南部地区の協働ネットワーク

北野地区喫煙マナーアップ キャンペーン

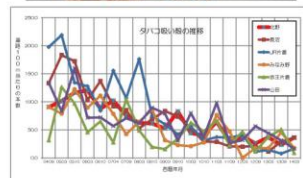
日時 平成26年2月28日(金) 16時～17時
場所 北野駅前
参加 八王子市、北野町会、打越町会、東南部環境市民の会 計20名
喫煙マナーアップディッシュ2000図配布



つ煙もマナー守っていい気分
きたの
ばこのポイ捨てがみえてる
一(NO)、歩きタバコはダメ

東南部のきれいさ評価

年2回、9月と3月に東南部の6駅周辺についてごみ種類ごとに数量をカウントし、見える化をしています。喫煙マナーアップにも役立っています。



自然エネルギー教室 身近な太陽エネルギーを使おう



長沼小学校 探検クラブ 4～6年 40名、先生2名、東南部指導者10名
1. クイズで学ぶ自然エネルギー 平成25年10月28日(月)
2. 太陽熱クッカーの製作教室 平成25年11月25日(月)
3. 太陽熱クッキングと太陽光発電 平成26年1月20日(月)

☆「ソーラークッカーを使ってさつまいもをやく」ために準備をして
くれてありがとうございました。太陽光パネルを持ってきて、ど
のくらい大きな電球に光がつくのか実験してくれたのでよく
分かりました。一番のお楽しみはさつまいもの味は・・・スゴ
くおいしかったです。太陽の光でいろんなものがつくれて、太陽は
スゴいなぁと改めておもしろい。

☆さつまいものきくもすごく楽しかったです。太陽の光でみちか
にある道具で作ってとても自然を感じてすごく良かったです。ソー
ラーパネルを光にあてると電気がついたり、せんぷう機がまわっ
たりすごかったです。ソーラークッカーのやり方はすごいエコで
した。



外来植物の駆除

外来植物は繁殖力がひときわ強く放置すると日本固有の植物が
駆逐され地域の生物生態系に多大な影響を与える恐れがある。

ナガミヒナゲシ

- ・地中海沿岸産のケシ科の帰化植物です。
- ・4～5月にかけてオレンジ色の可愛らしい花を付け、その後少し長いケシの果実を付けます。
この果実には1000～2000個の種が入っており、熟した種が道路や空き地に散らばり、
車のタイヤや人の靴底について運ばれて広がります。
- ・このため幹線道路の道路脇のコンクリートの隙間や歩道の端など下の方に多く見られます。
- ・繁殖力が強く空き地や道端はがら取られ、日本固有の植物が駆逐されています。
- ・種子が飛散する前の時期(4～5月)に駆除するのが効果的です。



根から引き抜き、ビニール袋などに密閉して燃える
ゴミとして処分してください。

打越八幡社落ち葉掃き

12月23日 ケヤキの落ち葉/剪定枝整理
11名参加

ラブジョイ彗星観望会



平成25年12月14日(土)

場所 片倉台小学校
参加 片倉台小、天文スタッフ、東南部環境市民の会
TBSニュースで放送されました。

浅川自然体験講座2013 「イカダで川下り、生き物観察」

日時 平成25年7月28日(日) 9:30～14:00
場所 エコひろば、浅川(八高線鉄橋下)
募集 八王子在学の小中学生(3年生以上)と保護者 39名
イカダの竹材の切り出しは宇津貫みどりの会に協力いただきました



年2回の自然体験講座には、東南部の町会・自治会に参加
いただいています。また、H25年6月2日に22名参加で
「親子で川の生きものと水質調査」を行いました。

浅川・湯殿川クリーンデー

7月7日(日) 湯殿川クリーンデー
9月1日(日) みんなの川の清掃デー 打越町会と交流
12月22日(日) 浅川 長沼橋下流、長沼町会と合同で行いました。

秋の自然体験講座2013

9月29日(日) わが街北野、打越、長沼を巡る
東南部地区市民23名、東南部8、長沼町会1、エコひろば1、合計33名
今回は広報に載せず、東南部で企画、北野、打越、長沼町会との交流は素晴らしい。

「節電・省エネ」講座

7月26日(木) 片倉台ふれあいサロン

東南部小学校13校に東南部環境マップA1ポスターとA3リーフレット配布

■ 自然体験講座



■ 親子で川の生き物と水質調査



夏の自然体験講座は、イカダで川下り・川の生き物観察を行い、参加者は子ども19名、大人20名、スタッフ16名、合計55名でした。日頃水と遊ぶ機会のない子どもたちは、親と一緒にイカダに乗り水に浮かび、浅川のきれいさ、生き物の豊かさに感心していました。

秋の自然体験講座は「わが街、北野、打越、長沼を巡る」を行い、参加者は23名、スタッフ10名、合計33名でした。地域の町会に働きかけて、参加者を募集したため参加者は地元の人が多く、地元にあるようなところがあるのを初めて知ったと好評でした。

■ 河川・水質

6月(全国一斉)と12月に14ヶ所の水質調査を行いました。浅川、湯殿川、兵衛川、山田川の水質は少しずつきれいになってきています。6月の浅川での「親子で川の生き物と全国一斉水質調査」や8月の「イカダで川下り、生き物の観察」を行い、きれいな川・親しみやすい川・遊びたい川を実感してもらいました。河川清掃としては、4月の浅川・湯殿川クリーンデーは雨天のため中止しましたが、7月には独自で湯殿川の清掃デー、9月には市一斉のみんなの川の清掃デーに参加し、12月には長沼町会と合同で浅川の清掃を行い、河川美化に大きな成果を上げました。

■ ごみ分別・収集・リサイクル

22年度から市の容器包装プラスチックの分別変更があり、プラスチックの分別を進めるために、エコひろばで行うプラスチック分別の活動に講師として参加しました。市民センターまつりでは、ごみの分別の啓発活動を行いました。

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

毎月1回、北野駅周辺のごみ拾いを行っています。更に半年に1回東南部地区6駅周辺のごみを拾いごみの内訳ごとに量を数えています。16年から行っていますが、市の路上喫煙対策、町会・自治会・事業者・学校・個人などのきれいにしようという自発的な行動によって非常にきれいになっています。5月にみんなの町の清掃デーに参加し、打越町会と合流して清掃しました。2月には喫煙対策のひとつとして打越町会・北野町会と市との協働により北野駅周辺で喫煙マナーアップキャンペーンを行いました。

■ 大気・地球温暖化防止

年2回のNO₂簡易測定を実施し、また環境フェスティバルで、地球温暖化防止に役立つケナフの苗を配布することにより、環境への関心を深めてもらう活動を行いました。節電・省エネの講演会も行いました。

■ ソーラークッキング

太陽光パネルを利用した自然エネルギー教室を長沼小学校で行いました。自然エネルギーについての座学の後、太陽光や風による発電の実演に加えて、太陽エネルギーを実感してもらうため、太陽熱で焼き芋やゆで卵を子ども達と一緒に作りました。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（由木）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、また、南側は多摩ニュータウンとして、地域の特徴としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。

古くは、昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足し、以来30年にわたり、多くの住民により多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきたことがあります。

現在は、多摩ニュータウン内の別所地区の面積19.8ヘクタールの長池公園、堀之内地区の面積5.2ヘクタールの堀之内寺沢里山公園が整備され、最後の開発が行われている隣接の東山地区も、みどりの保全を重視した緑地と住宅計画が進められています。

さらに、堀之内の里山について、都の自然保護条例による里山保全地域に指定された宮嶽谷戸のみどりの保全を進めています。

また、大気と河川の水質については、全地区に係わることであることから、関係団体と連携してNO₂の測定および大栗川・寺沢川・大田川の水質調査を継続しています。

■ 自然環境

25年度も、春・秋に恒例の自然観察会を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て実施しましたが、参加者も多く、春・秋の観察コースを毎年、由木地区の東側 堀之内地区と西側 中山・鎌水地区を交替して植物を楽しめるよう計画し、4月の自然体験講座は野猿峠バス停に集合して、中山、鎌水を経て絹の道保存館までの自然観察を行い、10月是由木中央小学校前バス停に集合し、日枝神社から平山城址公園を経て、寺沢里山公園で解散するコースの自然観察を行いました。

また、本年度実施できなかった巨樹・巨木めぐりの実施については、次年度実施に向けて検討を行いました。

里山保全活動については、長池公園・堀之内寺沢里山公園の2つの公園で指定管理者の協力を得て、公園アドプト活動と併せて実施しており、長池里山クラブの12月の収穫祭に市長の激励を受け、2月に多摩丘陵里山連絡会主催の炭焼き時の脱煙脱臭について勉強会を行いました。

特に、多摩丘陵の自然を守る会が、東部（由木）地区での30年間の自然環境の変化とそれに対する保全活動について、記念誌「守っていききたい 多摩丘陵の自然 - 30年の活動-」にまとめました。



春の自然体験講座



秋の自然体験講座

■ 河川・水質

河川の水質調査は、6月2日に全国水環境マップ実行委員会や浅川流域市民フォーラムなどと協力して、大栗川4か所、大田川2か所と寺沢川5か所の3河川の11か所で水質調査を実施しました。

■ 大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域におけるNO₂の調査は、他の環境市民会議と協力し、データの収集を行いました。

25年度の調査は、6月6日から6月7日にかけてと、12月5日から6日にかけての2回に参加しました。結果の数値については、データ集に示しています。

結果の分析には他のデータも必要と思われますが、この中の堀之内第三トンネル内のデータ（12月）が、0.091ppmを示し、測定した中では最悪の数値を示していますが、測定場所がトンネル内なので、今後の対応を検討中です。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

■ 美化・ごみ・エネルギー

南大沢駅周辺では、駅周辺の美化活動、禁煙マナー向上活動も継続されており、各店舗の駐輪場・バイク駐車場が整備され、放置自転車は、ほとんど見られません。これらの一環として、南大沢中学校と青少年対策南大沢委員会が中心になり、地元商店街の「元気な街“南大沢”協力の会」や南大沢町会も加わった、年に3回のクリーン・デーは、今年度は、雨天により、1回中止になりましたが、毎年継続して実施する計画になっています。

駅前に設置されている22基のフラワーポットの植替えや、水やりなどの維持管理を南大沢みどりのサポーターの会が中心となり、毎月2回の活動日に行っています。しかし、秋の台風で、駅改札前のメインのフラワーポットのつるバラのアーチが破損し、新しいアーチを設置しました。

なお、24年7月、南大沢3丁目に八王子バイオマス・エコセンターが完成しましたが、悪臭が問題化していて今後の改善計画に対する進捗状況に関心を持っています。

また、今年から生ごみ資源化として、ダンボールコンポストの活用についても、町会との連携を視野に入れながら市との協働により講習会を開催したほか、マイバッグ利用促進運動についても市と連携し実施しました。



ダンボールコンポスト講習会

■ 環境にかかわる実践活動と今後の問題点

環境教育支援として、由木東小学校・由木中央小学校・柏木小学校・松が谷小学校に対して、エコひろばとの連携のもと、他地区の環境市民会議の会員の協力を得て、大栗川、浅川などで実施しました。

しかし、希望校が増加することにより、対応する指導者不足の問題が出て来るので環境教育支援の指導者の研修会（講習会）を行い、人員を確保することが必要になります。

■ 広報活動

自然体験講座をはじめとする環境市民会議の活動について、毎年環境月間の6月に行なわれる環境フェスティバルや南大沢と由木中央の住民協議会の開催する市民センターまつり、そして毎年8月に市と協力して実施する環境パネル展、さらにはエコひろばの主催する行事等のパネル展などに展示し、活動に対する理解と協力をお願いしました。



環境フェスティバル



活動パネル展（由木中央市民センター）